

評価者のコメント

<事業名：ダイオキシン類総合調査費>

ダイオキシン類の1日摂取量調査は、二次的推計であり、より政策に近いので、政策に関連して国で行う。

血液中のダイオキシン類濃度調査は、これまでの分析結果を踏まえて、格差を踏まえたより効率的な調査を考えるべき。

ダイオキシン類に関する国際動向調査は、専門知識は、環境省職員にも必要で、よりアカデミックに近い所にも国が参加すべき。

ダイオキシン類の1日摂取量調査、ダイオキシン類に関する国際動向調査は、本来国が行うべき業務と考える。血液中のダイオキシン類濃度調査は、統計上の有意性がない手法の継続は国費の投入上大きな問題がある。よって、方法についてゼロベースで見直す。

ダイオキシン類の排出量は今後大幅に増加することはないと考えられる。過去のデータをみれば、都市部、農村部、漁村部等地域の食生活により血中濃度に差があると考えられる。したがって、今後は血中濃度調査は単に都道府県数を減らすということではなく、ハイリスク地域の経年変化を調査すべき。

ダイオキシン類の知見は日進月歩である。したがって、国際動向も含め、把握すべき。

血中濃度調査は廃止（統計的な有意性は全くない。蓄積されたデータを活用することで十分足りる。）。

一日摂取量調査は環境省本体で。

ダイオキシン関係予算は一本化を。

環境省のダイオキシン情報収集体制は不十分である。ダイオキシン類の1日摂取量調査、血液中のダイオキシン類濃度調査、ダイオキシン類に関する国際動向調査の総合調査としては、今後、の調査の簡略化は可能としても、他のの調査についても環境省本体業務にすべき事業なので、外部に任せるやり方は危険である。国環研を使って再構築した方がよい。

現時点での傾向値とリスク水準の低さから見て、このままの形で事業を継続するのは現実的ではない。

特に、ハイリスクグループ、重点テーマに絞って調査を行うなど、方法を見直すべき。

調査の効率性について、一部再検討の余地があると思います（事業の必要性については異論なし）。

一日摂取量調査結果からすれば、環境省が血中濃度調査をする必要性は低い。

学会参加の意義がどこまであるのか。文献調査で十分ではないのか。

ハイリスク領域に焦点を合わせるべき。

評価結果

抜本の改善

(一部改善 2 人、抜本の改善 4 人、廃止 2 人)